

さわやか3年生

富田小学校第3学年通信
夏休み臨時号

暑中お見舞い申し上げます

子どもたちは、夏休みを毎日どんなふうにご過ごしていますか？家族の皆さんとそれぞれの夏を満喫していることでしょうか。

さて、昨日（8月1日）、富田小学校夏の課外授業『親子でシーがる・た大会をしよう』が、徳島県立近代美術館で開催されました。夏休みの自由参加の行事で、参加できなかった子どももいますので、その様子を伝えたくて学年通信夏の臨時号「シーがる・た特集」を発行します。

『シーがる・た遊び』ってなあに

第1回目の「シーがる・た遊び」は、学校と美術館の共同研究で開発されている鑑賞シートNo.6「シーガルの人間像」を活用して、7月12日（木）に富田小学校の3年生のそれぞれの教室で行われました。



この鑑賞シートには、アメリカの彫刻家「ジョージ・シーガル」によって制作された『サングラスをかけたベンチに座る女』の11枚の作品写真と、その作品から見つけたことや感じたこと言葉に置き換えた7枚の『読み札』が載せられています。

同一作品であっても、向きが変わったりクローズアップされたりすると、その印象が変化してきます。子どもたちは、7枚の読み札にピッタリの作品写真を、かるたの絵札見つけのような感覚で探していきました。

同じ読み札でも、自分がどの言葉に共感するかで、選ぶ絵札（作品写真）が友だちとは違ってきます。また、作品写真から思い描いたイメージをたどりながら読み札を選んだ子どももいたかもしれません。その後は、自分たちもシーガル作品の読み札をつくり友達と当てっこしながら楽しみました。

さて、「シーがる・た遊び」・・・この鑑賞遊びのネーミングの由来、もうお分かりになったことでしょうか。シーガルの作品でかるた遊びをやってしまうところから付けられました。そして、カタカナで表記した「シー」の部分には、この活動への願いも込めました。英語の「see」には、「見る」のほかに「出会う・考える・理解する・認める」などの意味があります。美術作品との出会いから、自分と向き合い、他者とも寄り添うことのできるような活動が生まれてくることを、この鑑賞遊びに託したのでした。

美術館でシーがる・た！

第2回の「シーがる・た遊び」は、7月13日（金）に徳島県立近代美術館で行われました。まずは、前日の「シーがる・た遊び」で生まれた読み札を、実物作品（『サングラスをかけたベンチに座る女』）の前で、美術館の竹内先生が読み上げてくれました。

そして、いよいよ展示室を遊び場とした「シーがる・た遊び」が、始まりました。作品との関わり方をシーガルから学び取った子どもたちは、展示室に並んだたくさんの作品を見ても誰一人とし

ちゅうちょ
て躊躇しません。あっという間に、作品の横には子どもたちがつくった読み札が並んでいました。そして、それはシーガルという母船で獲得した生きる力を、美術館という大海で見事に披露！といった感じでした。

しかし、子どもたちはこれだけでは満足できません。一生懸命考えた読み札なのですから、当てっこ遊びにはぜひとも自分のを読んでほしかったのです。「お願い！次は、ぼくの読み札、読んで！」熱い眼差で、そう懇願しても限られた時間の中では、その願いを叶えることができたのは数名の子どもだけでした。読み札が当てっこ遊びに使われなかった悔しさを抱えて帰ることになってしまいました。

みんな、ごめんなあ。バスに乗り遅れたら、大変なんだ！



親子でシーがる・た！

そうして、昨日8月1日（水）、第3回「シーがる・た遊び」が、徳島県立近代美術館で行われました。3年生の子どもたち（26名）とそのご家族のみなさん（20名）が集まってくれました。今回は、前回の活動の反省を生かして、読み札をつくる活動と絵札（展示作品）を探す活動の両方が、どの人にも保証されるように工夫してみました。

『おたまじゃくしグループ（3年生児童）』VS『かえるグループ（保護者・兄弟姉妹）』という対抗戦スタイルの「シーがる・た遊び」です。

まずは、それぞれ別の展示室で作品をよく見ながら、読み札をつくっていきました。子どもたちは「とっておきの読み札をつくろう」と、闘志を燃やし大はりきりでした。大人たちは、その1枚1枚に苦勞しながらとても大切に記しているように感じました。

時間が来たら「さがしてね、ボックス」の中に、読み札を入れて部屋を交代です。そして、子どもたちは、お母さんや兄弟たちがつくった読み札を見て絵札となる作品を探していきます。反対に、お母さんたちは、3年生の子どもらがつくった読み札から絵探しをしていきました。

「子どもの読み札を読むと絵の中の気づかない点を発見できました。」と感想を書いてくださった方がいました。「他の人の見方に寄り添うことで新しい見方や考え方が生まれる」それは、ささやかですが、新しい自分との出会いを感じられるすてきな瞬間なんだろうと思います。

「今度は、作品を見て絵本をつくってみたい」数名の子どもがそう書いていました。クレーの作品とお話をしながらつくったという5年生の酒井君の絵本朗読を聞いて、憧れをいだいたのでしょう。

そして、私たちも「友達とも大人の人とも、前よりなかよしになれた」と感想を書いてくれた子どもの言葉から、この活動の本当の意味を教えられた気がしました。

一緒に参加してくださった、ご家族の皆さん本当にありがとうございました。今回、一緒に参加できなかったみなさんには、お母さんたちがつくった読み札をおみやげにもって帰ってきてます。楽しみにしててくださいね。

残りの夏休みも元気で楽しくお過ごし下さい。

(2007. 8.2)

